

柿本朝臣人麻呂、石見の国に在りて死に臨む時に、自ら傷(いた)みて作る歌一首

鴨山の磐根し枕(ま)ける我をかも知らにと妹が待ちつつあるらむ (2-223)

【史料4】 宗祇法師集

春

(中略)

たかつの人丸によみて奉し哥の中に春欲暮

うつりきて月は有明花にはあらし宿とふへくもみえぬ春哉

(中略)

雑

(中略)

高つの人麿に三十六首の哥たてまつり侍し中に寄道祝を

末の世になりてもむかしありきてふ人をそあふく敷島の道(下略)

○これらの歌を詠んだ年月日は不明であるが、宗祇は文明一二年と延徳元年に大内氏のもとに下向している。このいずれかの機会に詠んだものの可能性があるので、しばらくここに収める。